



迫力ある踊りを披露した、日野中学校生徒による「ソーラン節」

# 生涯学習の成果を発表 今後のまちづくりに生かす

## 平成 19 年度町生涯学習まちづくり大会

日ごろからの生涯学習を通して  
これからのまちづくりを考える、  
日野町生涯学習まちづくり大会（町主催）が、  
12月9日、町文化センターで開かれました。

町民による取り組みの発表と  
子どもの心を育てる講演会の2本立て

「21世紀のまちづくりを考える」生涯学習とまちづくりをテーマに開かれた大会には、約150人の町民ら  
が参加、町内の個人・団体による実践発表と、記念講演  
が行われました。

実践発表「日野町で  
生きる私の実践」

実践発表では、町内の学校  
や各種団体など7組の発表者  
が、日ごろ行っている活動や、  
その成果などについて発表し  
ました。

「少年の主張作文コンク  
ール」で佳作を受賞した日野中  
学校3年の山本美佳さんは、  
受賞作「画面で見た現実」を  
発表。世界中の貧しい子供た



根雨小学校金管バンド

ちの現状を偶然テレビで見た

ことをきっかけに、自分の恵まれた生活に感謝しなければいけないこと、また、世界中の人が他人を思いやることでこの現状が変えられるということを訴えました。

木のおもちゃづくり活動について発表した田口郁江さん（舟場）は、20年間続いている活動を通して、「木のおもちゃづくりで子どもたちの感性が育ちます。これからも作り、遊ぶ喜びを子どもたちと分かち合いたい」と話しました。

そのほか、ひのっこ保育所



田口郁江さん



山本美佳さん



黒坂小学校の皆さん

の音田真理子さん（野田）が今年参加した全国解放保育研究集会について、森田勝彦さん（根雨）は、総合型地域スポーツクラブD.O.スポーツの活動についてそれぞれ発表しました。

日野高校との農業体験を通じた交流事業について発表した黒坂小学校1・2年生は、客席に向かって大きな声で元気に発表し、参加者から拍手を送られていました。

また、根雨小学校児童による金管バンドは「ロッキーのテーマ」などを演奏しました。実践発表の最後を飾ったのは、日野中学校生徒によるソーラン節。現代風に編曲されたソーラン節と伝統の宝仏太鼓との合作で、力強い音楽と迫力ある踊りに、客席も大いに沸きました。

## 知識よりも体験が子どもを育てる

記念講演『テレビ・ビデオ・インターネット・ゲームが子どもの心に及ぼす影響』

今回の記念講演では、川崎医科大学小児科教授の片岡直樹さんを講師に迎え、テレビ・ビデオなどのメディアによる子育てへの弊害についての講演が行われました。

子どもたちの脳をむしばむ『ゲーム脳』

30年以上前からテレビなどが子どもに与える影響を研究してきた片岡さんは、「テレビとともに育った世代が親になり、赤ちゃんのときからテレビがつきっぱなしの状態です。子どもも珍しくありません」と話し、また、「テレビやテレビゲームなどに熱中する

子どもは、脳をコントロールする部分で働かなくなり、また一種の中毒症状になりゲームがやめられなくなる」と、いわゆる『ゲーム脳』の恐ろしさについても話しました。

さらに片岡さんは、医師としての経験から、赤ちゃんの

時にテレビ漬けの生活をしていないことでしゃべらない・笑わない・遊ばない子どもに育ってしまった子どもたちの症例を、実際の映像を見ながら解説しました。

その中で片岡さんは、「片目でも両目でも同じように見えるテレビばかり見ているのは遠近感・距離感が育ちません。知識だけを詰め込むのではなく、自分自身が豊富な体験をすることで子どもは育ちます。デジタル育児よりアナログ育児を心がけてほしい」と話しました。

最後に片岡さんは、「私たち大人の脳は、テレビを見ても必要な情報だけを頭に入れるよう育っています。赤ちゃんは違います。テレビや電子機器の音は赤ちゃんの頭を占拠し、それ以外は耳に入らなくなってきます。それが人間の心がどう育つかの基本になります。そのことに大人が気付くべきです」と訴えかけ、参加者らはその実態に驚きながらも感心しながら聞き入り、認識を新たにしました。



片岡直樹さん(川崎医科大学教授)  
昭和17年生まれ。  
主な著書に『テレビ・ビデオが子どもの心を破壊している!』など。